

本書出版後に、私が「疑核」を「偽核」と勘違いしていたことを、友人の解剖学者からご指摘いただいた。彼の指摘通り *Nucleus ambiguus* の日本語名は、確かに「疑核」であって「偽核」ではない。神経核かどうか疑われるほど曖昧だとの意味だとすれば、第 13 話の冒頭で述べた私の疑問は雲散霧消してしまう。この章のタイトルも、本当は「疑われた核の葛藤」となるはずだったと思う。ここに、誤りを指摘いただいた友人に感謝するとともに、名前に不当な言いがかりをつけてしまったことに対し、「疑核」にお詫びしたいと思う。

(2013 年 5 月 岩田誠)